

平成23年度の第1回の発刊に当たり、また、この4月より副院長（看護職）に就任しましたので、連携施設の皆様方に一言ご挨拶申し上げます。



副院長
近藤 ときえ

市立札幌病院の地域連携センターは、2008年に後方支援を目的に設立いたしました。紹介患者予約率は、2009年40%、2010年48%と増加し、大腿骨近位部骨折や脳卒中等の地域連携クリティカルパス(以下連携パス)を用いた連携も、徐々に拡大し充実してきております。2010年から始まった循内薬剤溶出ステント留置後連携パス、循内ペアメタルステント留置後連携パス、前立腺がん連携パス、肝臓がん連携パスなどは、多くの施設の方々と連携させて頂いておりますことに感謝申し上げます。特に、5大がんの連携パスについては、がん対策基本法に基づくがん対策推進基本計画およびがん診療連携拠点病院の指定要件の見直しに伴い整備が求められました。現在、患者を中心に地域連携が大きなチームとして、がん医療の質の保証と安全の確保が図れるように連携パスの整備を推進しているところです。今後とも、皆様方と協働できます事をお願い申し上げます。

さて、昨年6月号「かざぐるま」で当院の看護職員集合教育プログラムへの参加を募集させて頂きました。その結果、退院支援講演会27名、クリティカルパスと看護実践11名、看護倫理研修8名、認定看護師が主催する「糖尿病の在宅看護」「褥瘡を含めた創傷ケア」のセミナーには75名で、合計171名の看護職員の方々に参加して頂きました。当院の看護職員も在宅看護を学ぶ機会を頂き、その知識と経験は退院支援に役立っております。今後も、共に学びの場を通して「顔の見える看看連携」の充実を図りつつ、患者さんの求める安心と信頼を継続させていきたいと思っております。

サービスアップ推進委員会より

当院の取り組みになりますが、「サービスアップ貢献部門表彰」についてご紹介させていただきます。

このサービスアップ貢献部門表彰は、全職員が患者サービスアップに貢献した部門を投票で選び、病院長から表彰状と共に「患者サービスに貢献したことに感謝を伝える」というもので、「CS（Customer Satisfaction：患者満足）はES（Employee Satisfaction：職員満足）から」という考えを前提にしています。また、職員満足について、病院経営戦略（医学書院）の中で小高弘子氏は「医療サービスにかかわる人全員の満足を作り出すべきである。真の職員満足は、職員が『自分自身の重要感』を得ることからしか生まれない」と述べています。そこで、サービスアップ推進委員会は、この取り組みを通して全職員が「自分自身の重要感」を得て職員満足を向上させること、そして、それが互いを認め合える職場環境を作り出すことに繋がることを信じて、これからもサービスアップ貢献部門表彰の充実を目指します。特に、互いを理解し目に見える成果だけに注目するのではなく、地道に根気よく取り組んでいることもポジティブに評価し表彰（フィードバック）できる体制を構築していきたいと考えています。

このように、サービスアップ推進委員会は、ポジティブ・フィードバックを通して職員満足を高めていきたいと考えています。そして、それが院内連携を円滑にする潤滑油となり、地域連携推進の一助となるように活動を推進して参ります。

今後とも、当地域連携センターと共々よろしくお願い致します。

平成22年度サービスアップ貢献部門表彰を受賞した各部門は以下の5部門でした。

診療科部門：緩和ケアチーム科、看護部門：外来、コメディカル部門：リハビリテーション科、事務・委託部門：SPD関係、特別表彰：診療部門・看護部門共に2位を獲得した救命救急センター